様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ３０ 年　 ６ 月　 ６ 日現在

機関番号：１２６０１
研究種目：基盤研究(B)（海外学術調査）
研究期間：2013～2017
課題番号：２５３０００３６

研究課題名（和文）ペルー北部ヘケテペケ谷最古の神殿はなぜその地点に建ったのか：編年と成立背景の研究

研究課題名（英文）A Study on the Earliest Civic-Ceremonial Center in the Jequetepeque Valley, Northern Peru : Its Chronological Position and Social Process

研究代表者
鶴見　英成（TSURUMI, Eisei）

東京大学・総合研究博物館・助教

研究者番号：００５２９０６８

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　13,900,000円

研究成果の概要（和文）：北部ペルー、モスキート平原に先土器期に神殿が成立した背景を、編年と地域社会の変化のプロセスに着目して考察するのが研究の主目的である。この平原には石造の基壇やテラスなどの遺構が多数分布する。それらの分布をトータルステーション測量し、27の地点にて発掘を実施した。大規模建築「モスキートZ1」の発掘では、何世紀にもおよぶ神殿の改変・更新過程が詳細に解明された。また他にも先土器期の祭祀的な建築複合や、耕作の痕跡のあるテラス群が平原内に複数認められた。これらの祭祀建築と、耕作地との空間的な関係および編年上の一致から、最初期の大規模建築の成立は農業生産と結びついていたと示唆される。

研究成果の概要（英文）：The main objective of this study is to investigate the rise of the civic-ceremonial centers during the Preceramic Period in the Mosquito Plain, focusing on their chronological position and the process of social change. All over the plain, there are a considerable number of cultural remains such as masonry platforms and terraces. After mapping them by using total station, I excavated 27 sectors. As a result, in “Mosquito Z1”, a monumental architecture which had a series of construction sequence over centuries, the process of alternation and renovation of structures was proved in detail. Also, this study showed that other architectural complexes with ritual character of the Preceramic Period and terraces with traces of cultivation neighboring to them were present in the plain. The spatial relation and chronological coincidence between these ritual buildings and cultivation fields suggest that the emergence of civic-ceremonial centers would be related to agricultural production.

研究分野：アンデス考古学、文化人類学

キーワード：ペルー　アンデス文明　神殿　形成期　定住　地域間交流　先土器　モスキート遺跡

１．研究開始当初の背景

ペルー中部・北部の諸河谷流域にて紀元前3000～50 年頃にかけて、神殿（大規模で壮麗な公共祭祀建築）を中核とする定住村落群が登場した。土器の導入に先立つ、とくに年代の古い「先土器神殿」の発見事例が現在までに多数蓄積されている。神殿の成立がきわめて古いということじたいが、人類史におけるアンデス文明の特徴として重要視され、各河谷の「最初の神殿」への関心が高まっている。しかし発掘規模の小ささや絶対年代測定の不徹底により、先土器神殿の編年の遺跡間・地域間比較が遅れており、また「神殿はなぜ最初にその地点に成立したのか」という根本的な問題に対する実証的研究が不十分である。

代表者はペルー北部のヘケテペケ川中流域にて 2011 年までに通算 5 回の発掘を実施し、南岸に展開する扇状地、モスキート平原の東端部に位置するマウンド「モスキート Z1」が、流域最古の先土器神殿の一つであるとの見通しを得ていた。またこの平原には他にも多くの類似したマウンドが分布し、広範囲にわたって地表がテラス状に整形されているなど、古代におけるさまざまな人間活動の痕跡が見て取れた。

２．研究の目的

本研究の目的は、それらモスキート平原の遺構群の通時的な変遷を解明し、平原全体の景観を分析することによって、なぜこの地点に神殿建築が出現したのかを実証的に解明することである。また、最初期の神殿が各河谷の中流部に出現するという傾向から、河谷間を結ぶ交通網がその成立の背景にあるとの仮説に立ち、他の地域との比較を進めることとした。これらの考察によって、アンデス文明の形成過程の特徴を描き出すことが最終的な目標である。

３．研究の方法

本研究は測量・発掘・絶対年代測定・景観分析を通じて、モスキート平原において先土器期の地域社会がいかなる活動を展開したかを、通時的に解明する。とくに 2015 年以降は中部山地ワヌコ盆地にて、コトシュ遺跡など同時代の神殿の研究に着手したため（課題番号 15H00713「ペルー、ワヌコ市の遺跡発掘：神殿の起源を巡る編年研究と、その成果への現代的関心」）、地域間比較を前提として考察を進めてきた。また所属機関に組織された東京大学総合研究博物館放射性炭素年代測定室と連携し、アンデス文明の高精度編年の確立という大きな目標の一環として年代測定を実施した。獣骨や植物遺存体などの有機遺物の同定、土壌の理化学的分析などは、ペルー国立トルヒーヨ大学の研究者らと連携して進めた。

４．研究成果

（１）測量と踏査による遺構群の登録

2013 年にモスキート平原全域を精緻に踏査して遺構の分布を確認するとともに、トータルステーションと電子平板を導入して測量を実施した。その結果、当初の想定以上に遺構の分布範囲が広いことが判明した。平原東端の「Z 区」などの神殿建築群から、平原西端の「C 区」などの小規模基壇建築群までの間に、人工的な基壇、テラス、盛り土などが切れ目なく続いていたのである。それらはいずれも本研究の対象である先土器期の建築物と考えられたため、それを 2014 年以降に発掘によって検証することとなった。なおモスキート平原の東側に広がるラマダ平原でも、やや疎らながら同様の遺構が複数確認された。

（２）モスキート Z の発掘

平原の東端「Z 区」に、5 基の基壇から成る「モスキート Z」神殿が位置している。うち最大規模の Z1 基壇の中核部を主対象とし、その傍らに並立する Z2、Z3 基壇を含めて、2014 年と 2015 年にトレンチ発掘を実施した。これにより 3 基の基壇は接続していびつな十字形を成すこと、Z1 基壇中央部は少なくとも 2 回大規模に更新されていたことなど、建築形態と更新プロセスについて多くの知見が得られた。とくに Z1 基壇中央部にて、先土器神殿に特徴的な炉と壁がんを持つ祭祀空間を検出し、室内での燃焼を伴う儀礼が他の地域と共通していたことが判明した。また年代測定に有効な炭化物や有機遺物試料が複数採取され、紀元前 2000 年紀前半に基壇建築の建設が繰り返されたことが明らかになった。

（３）その他の神殿建築群の発掘

2015 年には「モスキート Z」神殿以外の大規模なマウンド群についても、先土器神殿であるか確認するべく、小規模な発掘を実施した。平原東端の丘陵上に位置する「モスキート X（ラマダ平原 A）」、扇央に立地する「モスキート Y」と「モスキート P」は、いずれも複数の基壇から構成された建築複合で、内部から土器は出土せず、採取された炭化物から紀元前 2000 年紀前半の年代が得られた。したがっていずれも先土器神殿であるとの結論に至った。これらの立地を検討すると、遠く離れたモスキート X、Y、P の 3 神殿がほぼ同一線上に並ぶなど、平原の広範囲を利用しながら、計画的に祭祀的な景観を造りだしていたと考えられる。

（４）テラス群の発掘

2014 年に 1 地点、2015 年に 22 地点、平原の西半分において小規模な発掘を実施した。対象としたのは石列を並べてテラス状に整えた地点や、その周囲に設けられた盛り土などであり、多くの場所が人為的に地形を改

変していることが明らかになった。土壌サンプルを採取して理化学分析したところ、古代において耕作地であったとの見通しを得た。また年代測定の結果によると、それらの多くはモスキートZなどの神殿群と同時期に機能したと考えられ、地点によってはさらに古い時代から、また地点によってはもっと後の時代まで、耕作地として利用されたことがわかった。平原を全体的に俯瞰すると、北に下る扇状地の西側半分に耕作地が広がり、東端および南側の扇央部に神殿建築が配置されているという傾向が明らかになった。

（５）結論と今後の課題

モスキート平原の神殿建築群は、耕作地としての土地利用と連動して建設が進められているため、平原全体を視野に入れて計画的に開発されたと考えられる。平原の各所に配置された岩絵の図像や、建築の形態などから推論すると、このような土地利用のアイデアはすでに他の地域、おそらくより南方のペルー北中央海岸などで発達したものであろう。

なお定説より早く、ラクダ科動物を飼養した長距離交易システムがこの時代に開始していたという仮説を立てて検証を試みたが、モスキート平原において骨など飼養の直接的な痕跡を確認することはできなかった。ただしテラスの土壌分析の結果、動物性資源による施肥の可能性が示唆されたため、この仮説は今後も検討課題とする。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕（計 12 件）

① Tsurumi, Eisei (in press) Early Settlement and Cultural Landscape in the Tembladera Area of the Middle Jequetepeque Valley. In Burger, R., Y. Seki and L. Salazar (eds.) *New Perspectives on Early Peruvian Civilization: Interaction, Authority and Socioeconomic Organization during the 1st and 2nd Millennia B.C.; Yale University Publications in Anthropology* 94. 査読有

②浅見恵理，鶴見英成 (2017)「チャンカイ文化の染織品の研究」『古代アメリカ』20:107-122．査読有

③鶴見英成 (2017) 「ペルー考古学の素描：フィールドでの対話」『月刊考古学ジャーナル』697:29-34．査読無

④ Tsurumi, Eisei (2017) El Período Formativo en el valle medio de Jequetepeque, norte del Perú. *Nayra Kunan Pacha. Revista de Arqueología Social* 1:175-186．査読有

⑤Sara, César, Eisei Tsurumi and Yoshio Onuki (2016) El Proyecto de Investigación Arqueológica Kotosh 2016. *Tiempo de Cultura* 37: 2-3. 査読無

⑥Tsurumi, Eisei, Yoshio Onuki y César Sara (2016) Retorno de la Universidad de Tokio a Kotosh: el pasado y el futuro. *Huánuco* 2(4):14-18．査読無

⑦鶴見英成，セサル・サラ (2016)「コトシュ遺跡の測量と形成期早期の神殿研究の展望」『古代アメリカ』19:35-46．査読有

⑧ Tsurumi, Eisei and Carlos Morales (2016) Excavaciones en la plataforma Z1, Pampa de Mosquito. Primera evidencia del Arcaico Tardío en el valle medio del rio Jequetepeque. *Arqueología y Sociedad* 30:353-372. 査読有

⑨ Kaulicke, Peter, Eisei Tsurumi and Carlos Morales (2015) Arqueología y paisaje del arte rupestre formativo en la costa norte del Peru. *Boletín de SIARB* 29:18-24. 査読無

⑩ Tsurumi, Eisei and Carlos Morales (2015) Un gato con muchas vidas: un petroglifo Arcaico Tardío en el valle medio de Jequetepeque. *Mundo de Antes* 8: 141-157. 査読有
http://www.mundodeantes.org.ar/pdf/revista8/07Tsurumi%20y%20Morales.pdf

⑪鶴見英成 (2014)「北部ペルー踏査続報－ワンカイ，ワラダイ，ラクラマルカ谷からの新知見」『古代アメリカ』17:101-117．査読有

⑫Tsurumi, Eisei (2014) Un estudio de agrupaciones espaciales de centros ceremoniales Formativos: el caso del Complejo Hamacas del valle medio de Jequetepeque. In Seki, Y. (ed.) *El centro ceremonial andino: nuevas perspectivas para los periodos arcaico y Formativo (Senri Ethnological Studies 89)*, pp. 201-223. 査読有

〔学会発表〕（計 19 件）

①鶴見英成，リセ・アクーニャ(2017)「ハンカオ遺跡第 4 次発掘調査－アンデス文明形成期編年の精緻化に向けて－」古代アメリカ学会第 22 回研究大会.

②César Sara and Eisei Tsurumi (2017) Investigaciones Arqueológicas en Kotosh. In *II Congreso de Arqueología 2017 "Lambayeque y la arqueología del norte*

peruano".

③César Sara and Eisei Tsurumi (2017) El Proyecto de Investigación Arqueológica Kotosh 2016. Excavación. In *IV Congreso Nacional de Arqueología*.

④César Sara and Eisei Tsurumi (2017) Kotosh y los nuevos aportes de la expedición japonesa. In *Cultura, identidad y nuevos aportes a la historia regional de Huánuco*.

⑤**鶴見英成, セサル・サラ** (2016) **「コトシュ遺跡第 4 次発掘調査－コトシュ・ミト期の新知見を中心に－」古代アメリカ学会第 21 回研究大会.**

⑥ Tsurumi, Eisei and Carlos Morales (2016) Monumentos arquitectónicos precerámicos en la Pampa de Mosquito, Tembladera, valle medio de Jequetepeque - Temporada 2015. In *III Congreso Nacional de Arqueología*.

⑦César Sara and Eisei Tsurumi (2016) El Proyecto de Investigación Arqueológica Kotosh 2015. Levantamiento Topográfico. In *III Congreso Nacional de Arqueología*.

⑧**鶴見英成** (2016) **「アンデス文明の先土器期神殿研究の現在－コトシュ遺跡とモスキート遺跡の調査を中心に－」日本考古学協会第 82 回総会研究発表（ポスター）.**

⑨César Sara and Eisei Tsurumi (2016) Conferencia "Historia de las Manos Cruzadas de Kotosh". La experiencia en Huánuco del Museo Móvil del Museo Universitario de la Universidad de Tokio. In *II Encuentro Macroregional de Museos*.

⑩**鶴見英成** (2016) **「神殿がそこに建つ理由－ヘケテペケ川中流域における神殿の興廃の歴史から」権力の生成と変容から見たアンデス文明史の再構築プロジェクト成果公開シンポジウム.**

⑪**鶴見英成, カルロス・モラレス** (2015)**「ヘケテペケ川中流域第 7 次調査：モスキート平原の形成期早期遺構の分布とその多様性」古代アメリカ学会第 20 回研究大会.**

⑫ Tsurumi, Eisei and Carlos Morales (2015) Nuevas evidencias de arquitectura precerámica en el norte: resultados de las investigaciones en Tembladera, valle medio de Jequetepeque - Temporada 2014. In *II Congreso Nacional de Arqueología*.

⑬ Tsurumi, Eisei and Carlos Morales (2015) Un estudio comparativo de monumentos arquitectónicos precerámicos a nivel interregional. In *II Congreso Nacional de Arqueología*.

⑭ Tsurumi, Eisei and Carlos Morales (2015) La aparición de monumentos arquitectónicos en el valle de Jequetepeque, norte del Perú. In *55th International Congress of Americanists*.

⑮**鶴見英成, カルロス・モラレス** (2014)**「ヘケテペケ川中流域第 6 次発掘調査：モスキート Z 神殿の発掘」古代アメリカ学会第 19 回研究大会.**

⑯ Tsurumi, Eisei and Carlos Morales (2014) Arte rupestre durante el Periodo Arcaico Tardío en el valle medio del Rio Jequetepeque, Cajamarca–Perú. In *"Primer Congreso Nacional de Arte Rupestre"*

⑰Tsurumi, Eisei (2014) Arte Rupestre y centro ceremonial; un ensayo sobre las rutas interregionales durante el Arcaico Tardío y el Formativo. In *Simposio "Arqueología y paisaje del arte rupestre formativo en el norte del Perú"*

⑱**鶴見英成, カルロス・モラレス**(2013)**「ヘケテペケ川中流域モスキート平原・ラマダ平原の遺跡分布調査」古代アメリカ学会第 18 回研究大会.**

⑲Tsurumi, Eisei (2013) The early ceramic from Tembladera and its chronological sequence. In *78th Annual Meeting of the Society for American Archaeology*.

〔図書〕（計 9 件）

①**鶴見英成** (2017)**「日本のアンデス考古学－コトシュ、クントゥル・ワシ、そして現在－」『古代アンデス文明展』島田泉・篠田謙一編**, pp.64-67, TBS **テレビ**.

②**鶴見英成** (2017)**「古代アンデス狩猟採集民の農耕民化――神殿, 交易ネットワークの形成」『狩猟採集民からみた地球環境史――自然・隣人・文明との共生』池谷和信編,** pp.74-87, **東京大学出版会.**

③**鶴見英成** (2017)**「神殿がそこに建つ理由――ヘケペテケ川中流域における社会の変遷」『アンデス形成期の神殿と権力生成』関雄二編,** 355-384, **臨川書店.**

④**鶴見英成** (2016)**「アンデス文明の黄金・織**

物・土器・建築」『見る目が変わる博物館の楽しみ方:地球・生物・人類を知る』矢野興人編，pp.376-398，ベレ出版.

⑤鶴見英成(2016)「略奪の歴史と考古学」『世界遺産マチュピチュに村を創った日本人「野内与吉」物語　古代アンデス文明の魅力』野内セサル良郎・稲村哲也編，pp.106-112，新紀元社.

⑥鶴見英成(2016)「南米の博物館－ペルーにおける考古学と博物館」『博物館展示論（放送大学教材)』稲村哲也編，pp.229-248，放送大学教育振興会.

⑦鶴見英成(2016)「アンデス文明の起源を求めて」『UMUT オープンラボ－太陽系から人類へ』東京大学総合研究博物館編，pp.257-258，東京大学出版会.

⑧西野嘉章・鶴見英成（編）(2015)『黄金郷を彷徨う－アンデス考古学の半世紀』東京大学出版会.

⑨鶴見英成(2014)「世界の中のアンデス，アンデスの中の世界」『第 29 回特別展　異文化への舟渡し－グローバル化と戸田－』p.16，戸田市立郷土博物館.

６．研究組織

⑴研究代表者

鶴見　英成（TSURUMI Eisei）
東京大学・総合研究博物館・助教
研究者番号：00529068